

令和5年度

2024.1.30

## 大山保育園年中児保護者会

### ～保護者の皆様からの質問に答えて～

中根橋小学校 校長

本日は、4歳児の保護者会にお呼びいただきありがとうございます。昨年度に続き2回目です。皆様とお目にかかれ本当に嬉しいです。

事前にたくさんの質問を頂いています。それにお答えしながらお話をさせていただきます。話がそれないように原稿を作ってきました。限られた時間ですので、原稿を読みながらの話となりますが、よろしくお願いします。

はじめに

どの子も伸びる力をもっています。

やる気スイッチはどの子にもあります。子供はスイッチが入るとすごい力を発揮するものです。

#### 1 学校生活に関すること

Q1:服装にきまりはありますか。

A:特にはありません。自分で脱ぎ着が簡単にできるシンプルなものがよいです。

子供は、目移りしやすいものです。派手な色が教室の中にあるとまわりの子も落ち着きがなくなります。服はできるだけ落ち着いた色が好ましいと思います。

Q2:先生との距離感、付き合い方等はどうすればよいですか。

A:学級の子供が一人一人違うように、保護者と担任との距離感は様々です。しかし、学校への関心をもっていただけると、お子

さんによい影響があります。反対に親が保護者会や授業参観にあまり参加しないと、子供は自分に関心がないと自然と感じ取ってしまうこともあります。保護者が学校に足を運ぶことで、お子さんの意外な一面を発見したり、学級の様子がわかったり、担任との距離が近くなったりします。そこに学校と親と子の好循環が生まれます。また、生活科の校外学習などの付き添いのボランティアに参加すると、保護者同士のつながりもできます。担任も保護者と親しくなりたいと思っています。是非、折々に学校においでください。

Q3:小学生のいじめは、どんなものがありますか。ふだんどのようなことに注意しておくとういいますか。

A:保護者の皆様が小学生時代にあった頃のいじめとあまり変わりはありません。今が昔と異なるのは、SNSがらみのいじめです。小学生の間でも、ラインなどへの不適切な書き込みや動画撮影など大人の目が届かないところで起きています。トラブルが起きると、拡散するなど当事者の手を離れることもあり、子供達どうして解決するのは難しくなってしまう。

1年生でもいじめはあります。きつい言葉や仲間はずれなど、やっている本人の自覚がないものがほとんどです。学校では当事者を含めて、なぜいけないのかを根気強く指導し、場合によってはご家庭の協力をお願いしています。

いじめはどこかで学習しています。子供が突然いじめを思いつくことはありません。人は今までの生活経験を基に行動しているのです。そのため、家庭でも、心に届く共感的な言葉遣いや対応を心がけると、お友達に対して優しい振る舞いができる子になります。

「人に言われて嫌なことを言わない、やられて嫌なことをしない。」これは、是非、親子でいつも確認してください。

#### Q4:小学校 1 年生における最新の取り組みはありますか。

A:大きく変わったことは、1 人に 1 台ずつ配られたタブレットです。保育園でもデジタル化が進んでいると思いますが、学校でも欠席の連絡は、QR コードを読み込んで、必要事項を入力しての送信です。教室では 1 年生もゲームを使いながらタイピング練習をやっていきます。どちらかというを使うよりも「触れる」ことを中心に行っています。本校では、発達段階に応じて、全学年でプログラミングの授業を推進しています。

#### Q5:ピーナッツアレルギーがありますが、給食の対応はどうなっていますか。

A: ピーナッツは食材として使わなくなりました。

今までのそばに加え、ピーナッツ、ピスタチオ、ピカンナッツ、キウイフルーツ、カシューナッツ、ブラジルナッツ、マカデミアナッツ、くるみ、ヘーゼルナッツ、松の実です。

その他、卵、小麦などについては除去食となります。

#### Q6:ちゃんと学校に馴染めるか、不登校にならないか心配です。

A:たまに集団の中にいることが苦しい、馴染めない子もいます。学校は保護者と一緒にその子なりの教育環境を考えていきたいと思います。無理に教室に入ることを強いると不登校になることもあります。ご家庭と丁寧に相談していきたいと思います。

## 2 入学までに

#### Q7:ひらがなを覚える気がありません。絵本も自分で読むことをしません。どうしたらよいですか。

A:ひらがなは学校に入って指導するので心配はいりません。自分の名前が読めて書ける程度で結構です。絵本はおうちの方が読んであげてください。

#### Q8:入学までに、生活面や学習面をどの程度準備しておけばよいか気になります。

A:今日は 4 歳児の保護者会です。皆様のお子さんが小学校に入学するまでにあと 1 年あります。この時期に学習の準備はいりません。しいて言うなれば絵本の読み聞かせを週に 1 回以上はしていただきたいです。言葉をどれだけもって、入学してくるかが大切です。学習における言葉の比重は高いです。また、友達関係で言葉が出ないとけんかやいじめにつながることもあります。言葉を獲得するために、親子の会話も大切です。生活面は、片付けと決まった時間に起きる習慣を身に付けて欲しいと思っています。日々の生活の中で、折々に人の気持ちを教えたり、やってはいけないことを話したりしてください。

#### Q9:お箸が使いません。

A: 1 年生で箸使いが上手ではない子もそれなりに給食を食べています。ご家庭でも少しずつ練習をしてください。必ず使えるようになります。指先と脳は密接に関連し

ていて、指先を使うことによって脳が刺激を受け、学習により効果があります。気長に箸使いに挑戦してみてもいいのではないでしょうか。

Q10:入学に際しての心構え、親子で覚悟しておくことはありますか。

A:この質問について1年生の担任に聞きました。

「学校は集団で学び、生活するところである」ことを押さえて欲しいです。基本的な集団は学級です。ひと学級の上限は35人ですが、だいたい30人前後です。保育園よりも集団の規模が大きくなるので、自分でできることを増やしておくことが大切です。そのためにご家庭では、失敗しても少しずつ子供にまかせることを増やして欲しいです。

それから、学校や担任を信じることです。いじめも含め何か気になることがあったらご相談ください。担任と保護者ができるだけ同じ価値観で対応をすることが効果的です。学校を「一緒に子供と育てるパートナー」と思っていたきたいです。そのためにも担任の悪口を子供の前で言わないことです。学校での指導が素直に入らなくなります。本校では7月と12月に全保護者対象に個人面談も行っています。子供を真ん中に教師と保護者がつながることが大切だと思います。

Q11:小学校入学までに身に付けておいて欲しい能力や習慣、そして家庭で心がけることは何ですか。

Q12:園児から児童になるときに、家での接し方も変えた方がよいのか。またどのくらいまで自分でできるように促したらよいですか。

A:食事・睡眠・体を動かす習慣が大切です。まず食事は、保育園で何でも食べるようにしつけていただいているので大丈夫だと思います。ご家庭では食事を楽しめるようにテレビは消してください。睡眠はたっぷり10時間は必要です。身体のバランスはとても大切です。揺れる感覚を味わうためにブランコ遊びなどをして欲しいです。これらのことを意識すると、自然と学校で必要な学びの素地、人と関わる力が身に付くはずですよ。

お子さんへの接し方については、親や周りの大人が過保護や過干渉、放任とならないように適度な距離感を保つことです。子育ては、自立させることです。折々にそのためにふさわしいかわりを失敗しながらでも続けることが大切です。「どの位までを子供に任せるのか。」との質問については、今の自分の子供にとってちょっと難しい程度を求めるのがよいと思います。できなかったことが「できた」になることは、子供にとって喜びですし、自己肯定感が高まります。

Q13:入学までに、できるようにしておくことはどんなことでしょうか。

Q14:小学校入学に向けて何をどのように準備していけばよいかが悩みです。

A:新1年生保護者会でお話する内容と重なります。本校のホームページに入学に際しての資料を後日アップロードしますので、ご覧いただくと助かります。

### 3 ご家庭でのこと

Q15:本人のメンタルケアを含め、どんなところを注意してあげたらよいですか。

A:大人はメンタルケアをほぼ自分でしています。子供でも少しずつできるようになることが好ましいです。メンタルケアは、

自分で気持ちをほぐして、整理して、いやな出来事にも折り合いを付けられるようになることです。そのベースは自己肯定感です。自己肯定感とは、「自分は自分でいいんだ」と思い、前に進んでいく力のことです。自己肯定感を育むためには、親や周りの大人が失敗も含めて子供の行為を認めてあげたり、励ましの言葉をシャワーのように浴びせたりするのです。もちろん悪いことは叱らなくてははいけません。

子供へのメンタルケアを一言で言えば、子供の話をよく聞いてあげることです。

「レジリエンス」という言葉がありますが、日本語では、「回復力」や「しなやかさ」と言います。このレジリエンスは、人間関係の中で育ちます。学校はメンタルを強くしなやかにするために必要な場です。学校での生活経験がなければ、社会で生きていくことは難しいと思います。学校は大人になるためのトレーニングの場です。学校の教育環境は教師だけではつくれません。地域や保護者の協力が必要なのです。できるときにお力を貸していただきたいと思います。

**Q16: 繊細な気質で、普段から我慢をため込みがちです。より大きな集団になったとき、親としてどう気配りや声かけをすべきか悩みます。**

A: 我慢ができるのは才能です。アメリカの幼児の耐性（がまん）についてのマシュマロの実験は有名です。我慢ができる子は、将来成功したり、満足度の高い生活ができたりとの結果が出ています。我慢ができる子は、感情的にならずに冷静に振る舞えるので学習や生活の成果が高く出ると思います。

しかし、我慢をため込みがちなのは心配です。家で学校の様子を聞いてあげて気持ち

を整理してあげてください。その我慢が子供にとって辛いものなら、どのように振る舞えばよいのかをお子さんと一緒に考えてください。学校も配慮ができますから、そのことを担任にも伝えていただけると助かります。

**Q17: 低学年に多い悩みは何ですか。**

A: 悩みは人それぞれだと思います。子供はレジリエンスが高いので、気持ちの切り替えが早く、悩みを引きずることはあまりありません。

心配なのは自己肯定感が削られていくことです。先生から注意されたり、学習ができなかったりすると、やる気を失ってしまいます。そうならないためにもお子さんの学習環境を整えてください。まず持ち物です。お子さんに準備させることは大切ですが、そろっているか確認するなど、ひと手間をかけてください。お子さんに関心を寄せることで、親のぬくもりを感じ、学校生活を頑張ってくれるはずです。

**Q18: 本人のメンタル、生活習慣、これまでの生活とのギャップ、学童の活用方法、週末の過ごし方、お友達との付き合い方、非行等。すべてが未知です。**

A: 保護者の皆様も小学生時代を経験してきたので、すべてが未知ではないと思います。20年前、30年前とそんなに子供や学校は変わっていませんので、安心してください。

学校を含め社会で生きていくために大切なことは、「人のせいにはしない。」ことです。すぐに人のせいにする子は将来的に伸びないし、人にあまり好かれません。何より自分で考える習慣が育ちません。子供の社会でも思い通りにいかないことがいっぱいありますが、親が子供のうまくいかな

いという感情を受け止め、どうするかを一緒に考えることが大切です。